

電子複写不可

沖縄遊撃戦

うるまの龍

才三遊撃隊長

陸軍大尉 村上治夫

複製史 戦術研究所戦史館

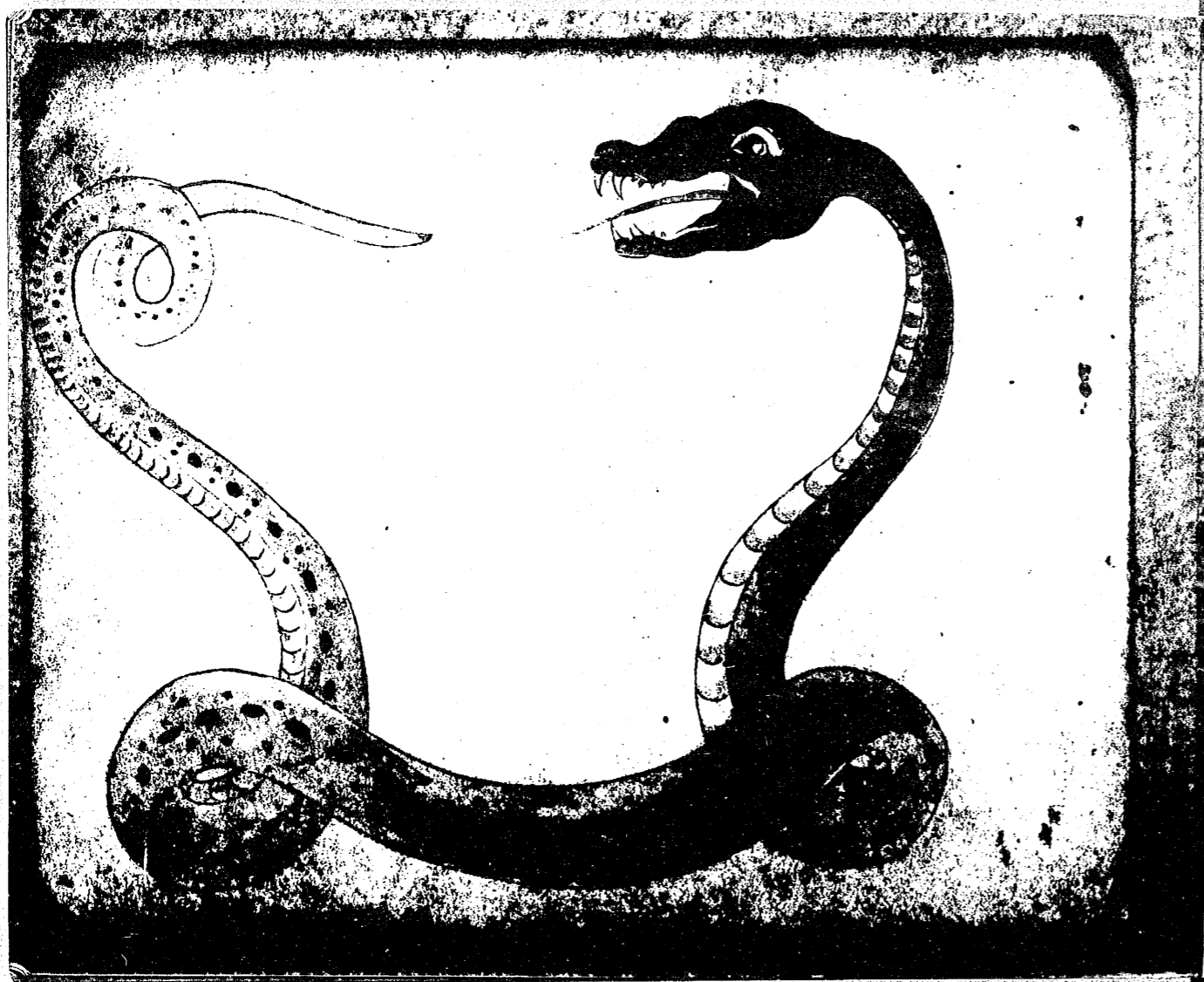


沖繩戰記

三島虎太郎

卷一

林上大尉



贈村上君

例しなき詔勅を拝し武人は

いたに畏み神をまに

程々に盡す誠の一筋に

皇國の春は復廻り來む

武人の道一すぢを畏み

踏み違へそ誠心乃道

昭和二十一年三月二十四日於米船上

吉田少佐

君が武勲を影下ささぐ

敗戦と共に君が武勲は 君が部下  
将兵の書意は淋しく埋れて報らさ  
けなく 英魂恨み多く 感慨無量  
なまじし とうと踏まると 堀らさく  
ともし 堪え難きと 及心の 神州不滅と  
誰法し 思いと 十載の後 白地を以て  
一 再建日本下の 礎をたらし ことを 期せ  
られぬ 君は 我輩よに 謀せられたる 功  
けと 又 英魂を 慰めよ 祈りたりん  
武意に 育る 泣きと 別れん 今一 言  
述べて 以て 誠となり

吉田 經之

空襲警報！空襲警報！  
今迄静かにいた町が一瞬の緊張の色が漲  
つて来た

電話は不通に陥った

遠い爆音、表に出て南を見ると早や讀谷の  
飛行場と覺し、辺に数條の煙、点々と炸裂表  
す。對空砲火……の中に点々、小さい敵  
機、同じに映して来た

又始めやがった。北人射とぶつくと、言ひながら  
家に入ると、警報の國領支隊遊撃隊兵機  
演習計画と検討してゐる

敵機東襲！！亦もや遊撃隊員が叫んだ  
途端、カーン！バグ、ハリッ！

一枚、二枚、三枚と續いて、三つ目標と襲

ん事長

今迄のいびり構へおた我々も三申より百米  
ふ難い此の家は若干慌てざるを得  
ない然し今迄はほろ慌てるのも見苦しい  
其後、悠起...  
空襲が一波は過ぎた 三申は座敷の偽装の  
地から史が事ふを済んだ

兵庫満留計画の議論は一時打ち切ると町の後  
善や状況も偵察する為の外出いた  
表次の空襲に民心は動揺しある一部の  
軍防備を残り町はいつとありたものた  
地が事務所の前へ来ると中頭島坑を内へ  
来る陸奥民の滑山途末に暮れて石佐尾佐とや  
係を督励して整理の...  
始末の就くものは... 戦中とは此...  
大業に... 一寸不安は...

引続いて二波三波と今迄の攻妻要領とは変  
る

情報に依れば敵の有力部隊は機動部隊が本島の  
東南に進出した後隊である

三月の兵種演習の為に北は出撃のありは名  
は不明である

三月にわたる相変るが空襲等報に今迄

二日も続いて空襲されたのははじめて敵進出  
に化して考へさせよう

空襲は次第に激しくなる一方に艦砲射撃も  
つらつらと音も聞える 午過ぎより右後部の攻

妻の始められた焼夷弾包による家屋燃焼の  
跡々見られる 兵隊団長は活躍も善く是迄

敵攻の敵機未だ一機も撃墜しては居ないが  
活発な空襲の勢は三時頃から次第に

弱くなる





新道共と違ふ  
絶然の心算  
植付のさき

自其の事  
病氣長

敵城。礼部等甲を羽地  
半防園長と云

神上と云  
甲城備の  
準備大

民衆は言は  
付中の件  
踏園民は

踏園の時  
簡單に會話  
急いで帰

元氣で纏  
の元氣で纏  
急いで帰  
急いで帰

思ふに、敵の動向は、  
曲り、山道を通る事、  
疑念最盛なり。

隊に敵、今、甲子戦備の  
下合を以て、  
戦計画に基き、各隊は  
準備を以て居り、  
谷文の監視哨も出で、  
楢点の移動は、  
他の戦中準備を以て、  
方良と思ひ、  
特、  
彈薬糧秣の分配も、  
出来て居り、  
状況報告も、  
多忙に終り、  
部隊の空情を、  
把握し、  
甲子戦備  
に命令を下す。

殉忠の只一助に生かす身は

山道の中に、  
夜、幹部會同、  
戦中準備、  
意見の交換も、  
心ゆく迄話合つた。



隊員の士氣の旺盛 軍引繞り各首遊撃

は前進す 青年兵も日頃の訓練と技の修練

日か迫る所たといひ張り切つてゐる 陣地の

敵軍に在り 益々戦中準備は促進され行

書官は敵機の飛梁の激しく陣地掃蕩の注

上炊器もまきすおきて休養と夜分の準備

を復時代の晝夜頻りに訓練の思ひ出される

最後は五分間 訓練のやうにやほふ

決戦とは戦中準備のこころ 幸々の言葉の

其可此所を聞かす存はなる 大分熱が入る

来た一同花い合ふ

暗い小溪の中へこころしく人の勤を你に

小声で話す你に氣がするのうで出て見ると

近藤章助の指揮する通信班にいた

彼等は一月二十五日修業の為名復に敵遣





しつてある。

直に艦の向きを見たり

艦隊の進入方向若射地点の肉撃も

艦隊は分つてはいないが警戒を要する

早速命令を命今して偽装の母艦を

指で分つてくるか先刻の威能は

約五百米離れた位置で部隊の

場である 煙：煙は昔も活意を

敵隊の攻撃は尚続つての艦隊の

激しくなつてい 然し兵達は何も

可愛の顔々眼を

谷文の監視明の目逐次報告が入る

敵の艦船を認められた 然し思ふ程

形はない いろいろと電語が必要だ

材不足の折柄部隊は只一角の電

付けたら何か骨を折る 支隊本部

ととも方々の肉もいはいの 部隊

本館に於て線路を設けるに河内  
 道屋草堂今も右腹にけり先設  
 地方醫と招致する伴に却徳句  
 機と何ふ融通とて来い。皆一  
 指合と置て。岸中草堂とて在り  
 谷文並祝明分の線路を構成能く如く命令  
 電話線といつても各地に拾はれ其めた  
 磁子も無い彼は工足と凝して作事  
 夕方逃々にあつて電話機への獲得に  
 飛はれ。夕方にたつと少くもわく  
 兵隊達は兵舎の。出て来てく作  
 に取られ。

未だ秋設糧秣庫は完成。二の  
 一も糧秣。彈薬。口精一杯の努力  
 迄七ねはらぬ。特に糧秣は嘉手  
 び。一袋と雖も一粒の米と雖



血の出る保は苦しみと観められた  
集積所より精液庫までの運搬も相  
努力を要する。道は惡い上に青年共で一人  
携り保つものも教へる程のほい  
撒育作業... 疲れたるの作業の進行  
従つて分教務区の方にも力を入る程の  
一方支隊からは今頃ならば固き  
親縁を履きかぶり取りに来い。さうさ  
今道何回と行々請求しぬもの仲も  
の累は驚き納まり自力で以て取りに  
癖にと若干癖の端の端の現在保  
八の袋文の調味品のほいなく初隊  
臨時勤務班の命令にて急務に  
此儀は衣新屋女衣等其の節に當  
特に其の感の深い保に  
臨時勤務班(初隊青年共)の家  
つておるもの合々(も)宜に良と勤

今之却隊全受退かす小流初であす

給養文は良きとやりたしと係と督勵す

心の地方の方便の空表の爲に思ふ隊品

之亦民衆拾得す心と山と下りてむす

月夜であす

昔車に家跡道具食糧一切を積載して曳きたり

水が流り叫ぶ子供と背負つて大さけ風を懸け一歩

背物と持つ婦人や理意を踏力下りてつとつと先

尋々の海を見せし何れと見ても逆巻城には役入

もはら 役物にたか 後防固衣以下高直のす

相変す元氣を陳用者の處をさし其の他

化ゆり居る 在るに由りた 其の同

總て我の隊に感

也あゆむ者たふす

其隊を敵すか海か由りた

今日源河と屋我地



此の部を多量に食糧も此(運用)に懸けて配  
一( )とする」と思知許り南の北

部隊も防謀は更に嚴ふると西々す  
計画に方針は

更に福の植付竹の件に於て是れは  
今冬惣て月夜と利便に於て居るとの事  
指導者々へ一ありして居れば民衆は自然と動も

所りて

銃血動隊防衛百集に引統つて約  
の隊長の部隊に配属した。部隊は  
準備完了の爲備の事も備に終る  
早速使用した。何と云ふも  
りよむ位訓練はせしむに役は

指導力の所へ

部隊の

各隊の主任は各隊の事務を  
兼行する

隊長は防犯隊或は日中夜間  
の警備隊を兼行する

一着隊警備隊より何れかの警備隊  
に入隊の訓令は例に依つて

今日只今の事と死力を盡して  
作業を遂行する

此の訓練は短期訓練で教官は  
各隊の主任である

全員の不足の敷の補充  
三年生の一年生より補充する

隊の主任は各隊の主任に  
任ずる

中隊長は隊長の主任(主任)  
の主任である

主任の主任は主任の主任  
である

訓練の傍ら生徒達の状況をよく見れば管理は十分  
除教殿に申すの如きは如何なりと申す(情報班を編成  
したるとうすか)と意す

一 訓練編成

三市の先せ方の論議は隊首を任せ各班は  
おける能力も検討し見れば  
首班軍曹を長とする情報班も型許は整備さ  
れたる見れば 統一訓練 乍候伝令等の陣  
中勤務に重点を置かぬ 此の三市生中  
早々の訓練に置けば偉大に戦力に  
全を備いことと考へる  
一方入隊訓練の方を指示して置いて傳令と陣中  
各々の監視哨の上をたつ

途中岸中軍曹の苦勞は果敢たであらう  
情報班を見れば 修正並に上つておると彼  
類に教場を指導しつゝの意令にたつ

16

と、流し下り漲り切つて報告し長

あ、中苦勞、中苦勞、亦此の罫子付者へたの

これ何れの大交文だ

流石の罫智利々岸中丈に巧々工夫とある

急坂路、早分の後監視哨に着いた、此の附

既陣監視哨と作る予定であつたが、亦此の

作をばい折せぬ

哨長未吉、午後一早速見付け

監視中、名覆博にB-C-D五遊、残波岬沖

月三其地一〇主として流谷附近に砲臺、名覆博に侵

入る敵艇、主として伊江島方向に移動

敵艇は、本即方面、逆天名覆博、主として爆臺

対銃掃射、只今餘力にて兵令構、中一と

皆軍に報告、小艇の急造、樹上監視哨に

上つて見

肉眼で見たりはるかに見

眼鏡で見たりはるかに見、敵艦船の群

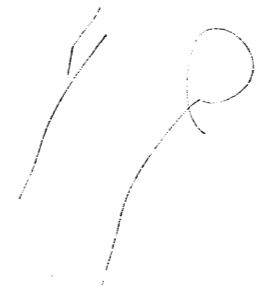
う、あ北の敵が今と良と要する所ある事要る所  
 とつふや思下ら敵情を見ればと謂と候と敵情  
 右後の方にも降下しと候と 爆音は常に然  
 上を在りといふ感ありと候と候 (此所は丁を後向  
 後路に當るゝ為るの故ある也) 亦下の據点群  
 近では砲声も爆音も大に聞え候と候 砲上  
 とは良と聞え候と候 此所は丁を後向  
 に出候と候

遠かに我軍指揮所と頂上に待たせねば候と候  
 今と我軍進満期間の短く候と候 今と候と候  
 同音 ころす事あり候と候 (三甲全北義會)

糧秣糧薬の分枝據点の移動 我軍指揮所の  
 構築等も初は速に候と候 俺の休はニニあるは  
 と思ふも候と候 候と候 候と候

三時頃 砲聲軍聲の上り下りあり 丁及び其の時今迄  
 南に其事の事 砲聲等あり候と候  
 邊境哨りの事 砲聲等あり候と候 攻めて討ち砲火あり





上の報告に  
成る程伊江島方向で猛烈な防空砲火が見られた  
然し友軍機は認められず、本朝半島の北に  
同じ様はともあつた  
船場にて塩屋沖にて二條の黒煙  
あつた友軍機は落ちて行く。うん高生やりやりの足跡  
と河内山叫んだ  
亦二方の敵の駆逐艦らしきもの上空に防空砲火の  
中を悠々と飛んでゐる。疎らに撃つる黒煙……  
わかに友軍機は  
バツと上る水煙の中に一羽炸裂光を認められ  
水煙がガクと崩れ、同時に敵の艦影はさう  
無かつた。見事は水平爆撃。轟轟と  
誰も認めない。有難い友軍機。一同萬才と  
叫んだ。特に音は樹上にはあつた。  
観たおれのだらま流しに瞬時にあつた。萬歳  
と叫んだ。約三米の木は枝も落ちた。

傍に居る身が昇つてくま上りせよと信は若一きん  
「うむ……」  
流る溜りも表一りてある確証とて又で裏沈り三

密遊り一か一日密遊り一か敵艦も裏破りして其上  
よめる艦の敵艦と始めた もろせー攻者一と見れば  
と思はほいもほい 目の前を怒々と動く敵艦を見

こは本意に勝つ  
さうして反手何れか

戦中指揮所の位置を偵察して  
本邦に歸ると滑り舟の機密隊の攻撃の途に  
待ち切りである 通信機から待てる長た船に電  
報を待つ事だ

長一子作戦が困難な点にあり  
軍団は乾燥しと揚一との航空攻撃の始め  
とて長一子と海軍の今日の航空戦の思はれ  
のびるも終るとあり

有難く申付たり賜ふ

天一号作戦は白雲安色決

景奮勵以て其目的達成

即ち各隊の傳達

請の務めを皆堅決

遂命場たる沖繩島

我等は必ず之を獲御

賜ふ米英要す

向ふと各々の感謝

死計と死ぬる死所得

抑上と復る此の俺達

愈々隊歌を實踐す

各隊は益々戦計準備

兵糧資材の現況を

隊員を増加した

千邊のつた早さから